

ブラジル：サンパウロ投資・貿易セミナー

2008年4月21日、駐日ブラジル連邦共和国大使館、サンパウロ州政府、サンパウロ工業連盟（FIESP）、国際協力銀行（JBIC）および当財団の主催にて「ブラジル：サンパウロ投資・貿易セミナー」を開催いたしました。同セミナーでは、サンパウロ州副知事、サンパウロ工業連盟（FIESP）会長およびブラジル大手企業のCSN、エンブラエル、ペトロbras、ヴァーレ、ウジミナスの代表者を招き、ブラジルとサンパウロ州の経済現況ならびに展望、そしてビジネスおよび投資機会について紹介がなされました。本稿では同セミナーの概要を一部抜粋して報告いたします。（文責：当財団）

「ブラジル経済の概況」

サンパウロ工業連盟（FIESP）

会長 パウロ・スカフ

副会長 サトゥルニーノ・セルジオ・ダ・シルバ

「サンパウロ州、最善の投資機会」

サンパウロ州政府

副知事 アルベルト・ゴールドマン

「代表企業紹介」

CSN、エンブラエル、ペトロbras、ヴァーレ、ウジミナス

ブラジル経済の概況

サンパウロ工業連盟（FIESP）
会長
パウロ・スカフ



サンパウロ工業連盟（FIESP）
副会長
サトゥルニーノ・セルジオ・
ダ・シルバ



ブラジル：地域・経済の概況

ブラジルの国内総生産（GDP）は1兆2955億ドル（2007年・名目）でメキシコを含むラテンアメリカ全

体の約4割を占めています。また、ラテンアメリカ全人口のおよそ3分の1がブラジル人で、面積の約4割がブラジルの国土です。

近年、ブラジル経済が好調とはよくいわれるところですが、こうした高成長は今後も続くともみられています。こうしたブラジル経済に対する楽観的な見方の理



由をいくつかあげていきましょう。

まず、ブラジルは対IMF債務をはじめとする対外債務を完済し、債務国から「債権国」に転じました。国内公的債務も着実に減少しつつあり、2007年のインフレ率は4.4%と安定的に推移しています。輸出と消費が堅調に伸びており、輸出は前年比16%増、消費も5.9%の伸びを示しました。失業率の低下とともに賃金も上昇し、所得格差が改善しています。貧困層の所得が増え、この5年で約2000万人が新しく中間所得者層の仲間入りを果たしました。

資本財生産は年平均14.8%で成長しています。2007年から2010年にかけて実施される「成長加速プログラム (PAC)」では、総額5000億レアル相当の投資計画が立てられています。世界的な格付機関であるスタンダード&プアーズ (S&P) は、2008年中にブラジル国債が投資適格格付け (BBB-) ^注を取得する可能性は高いと述べています。

注：本セミナー後の4月30日、ブラジルはS&PからBBB- (投資適格) を取得。5月29日に今度はフィッチ・レーティングスが同国を投資適格級のBBB-に格上げ。

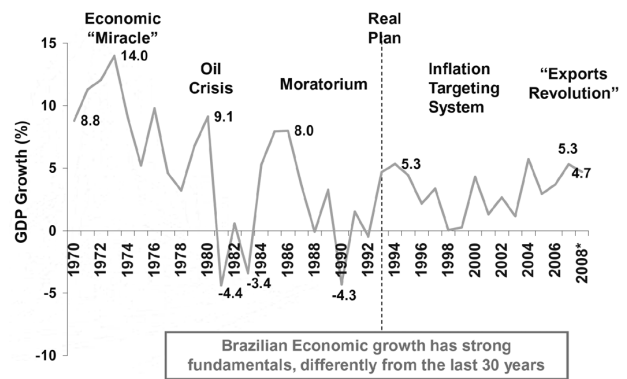
近年ブラジルの経済成長は力強いファンダメンタルズに支えられています。2007年のGDP成長率は5.3%を達成し、2008年の予測は4.7%です。これは他の新興諸国平均 (2007年7.9%、2008年予測6.7%) に比べると低いですが、全世界平均 (同4.9%、3.7%) でみれば十分に高いといえるでしょう。

貿易の概況

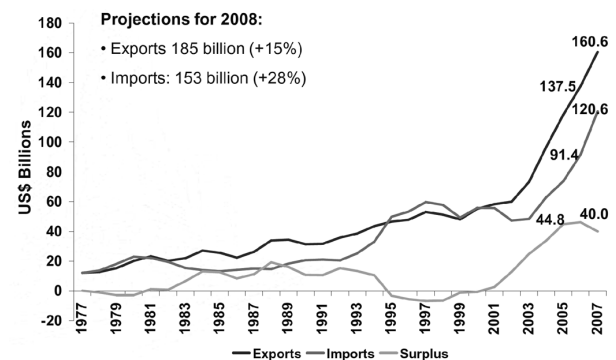
2007年のブラジルの貿易収支は400億ドルの黒字で、輸出入を合わせた貿易総額では、ラテンアメリカ中、メキシコに次ぐ第2位です。

ブラジルの貿易は2002年以降、輸出入総額、黒字幅ともに飛躍的に拡大し、2007年は輸出入合わせて過去最高の約2800億ドルに達しています。貿易相手国の多様化により、対米輸出比率が低下する一方、中国をはじめとするアジア向け輸出は2007年に前年比20.5%増加しました。ブラジルの主な輸出品は原油、鉄鉱石、大豆、航空機、コーヒーなどですが、好調な新興国経済が輸出をけん引し、米国の景気減速による影響を払しょくしています。

図表1 ブラジルの経済成長率



図表2 貿易収支の推移



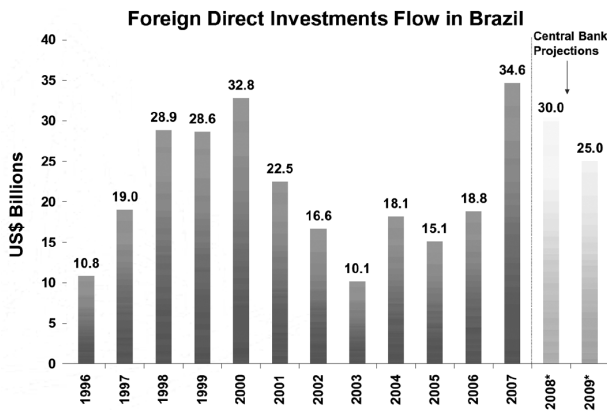
FDI・インフレ率・対外債務・外貨準備の概況

海外直接投資 (FDI) 流入額は過去10年間で累計2260億ドルに達しました。2007年は外資企業による大型案件が相次ぎ、年間で346億ドルとこれまでの最高額を記録しています。

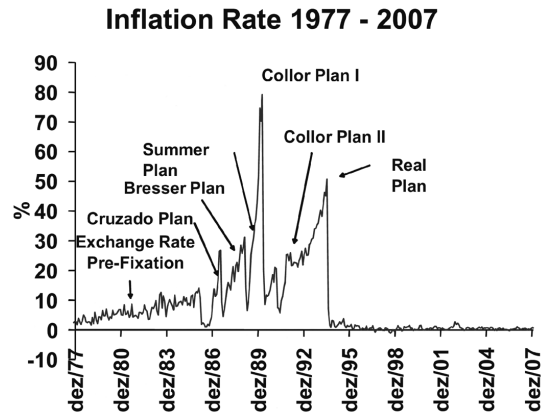
過去の経験からブラジルは、インフレの抑制に重点をおいた経済運営をしています。1994年に実施されたレアル・プラン以降、物価はそれまでに比べ大幅に安定し、先進国並みのレベルに落ち着きました。99年にはインフレターゲット制を導入し、インフレ率のさらなる安定化に努めた結果、インフレ抑制に市場の信認を得ています。

ブラジルの外貨準備は2007年は1800億ドルと、過去3年で235.2%増加しました。外貨準備高の増加によりブラジル経済は外的ショックへの耐性を高めています。また、IMF、パリクラブの債務も完済し、2008年には対外債務から資産を引いたネット対外債務がマイナスに転じ、ブラジルは純債権国となりました。失業率も低下傾向にあり、2007年12月には、統

図表3 FDI流入額の推移



図表4 インフレ率推移



計記録上これまでの最低となる7.4%を記録しました。

エネルギー

豊富な資源国であるブラジルは、2006年に石油自給率100%を達成し、2007年には年間の原油生産量が6億6000万バレルとこれまでの最高を記録しました。加えて大規模な石油・ガス田の新規発見が続いています。2007年末発見のサントス沖の海底油田は、ブラジルの石油・天然ガスの埋蔵量をそれまでの130億バレルから一気に210億バレルへと増加させる大規模油田です。海底油田開発では国営石油会社であるペトロプラスが世界トップレベルの技術をもっています。

また、ブラジルはエタノール、バイオ燃料などの再生可能エネルギーでも世界的な優位に立っています。エタノール生産でブラジルは世界第2位、輸出では世界第1位です。エタノールとガソリンを混合して使用するフレックス燃料車は、世界に先駆けてブラジルが開発しました。ヤシや大豆からの代替バイオディーゼル燃料開発でもブラジルは世界に先行しています。

日伯貿易とFDI

ブラジルの貿易相手国として、日本は2007年に輸出で第8位、輸入で第6位でした。日本からの輸入品は、①機械、②輸送機械、③電気機器、④光学製品で、輸出品は、①鉄鉱石、②アルミニウム、③鶏肉、④コ

ーヒー・茶葉、⑤鉄鋼です。2007年の対日輸出総額は43億ドル、輸入は46億ドルと、ブラジルが3億ドルの入超でした。

日本からのFDIのうち17%はラテンアメリカ向けで、そのうちの約5割がブラジル向けです。1996年から2006年までの間にブラジルが受け入れたFDI総額の2.6%が、日本からのFDIでした。過去ブラジルは日本と大規模な協同プロジェクトを行った実績があり、こうした実績からみて、現在の日本の対伯投資にはより大きな拡大余地があるといえます。

今後の事業機会

2008年は日系移民100周年の年でもあり、ブラジルへの投資機会は多様かつ魅力あふれるものとなっています。通信分野でブラジルは日本式のデジタルテレビ規格を採用しています。エネルギー面では先にも述べたとおり豊富な石油・ガス埋蔵量を持ち、またバイオ燃料の世界最大の輸出生産国でもあります。国内に目を向ければ、急速に拡大する電力需要、そして住宅需要への対応が急務であり、大規模インフラ整備が官民パートナーシップで計画されています。排出権供給国としても、ブラジルは日本に大きな機会を提供することが可能です。日本は食糧の純輸入国ですが、世界有数の食糧供給国であるブラジルは、日本の食糧の安定確保に貢献できるでしょう。ご清聴ありがとうございました。



サンパウロ州、最善の投資機会

サンパウロ州政府
副知事

アルベルト・ゴールドマン



サンパウロ州の特徴

サンパウロ州は面積約25万km²とブラジル全体のわずか3%を占めるにすぎませんが、全人口の22%、国内総生産（GDP）の31%、そして国内金融取引の68%を占める経済と産業の中心地です。ブラジル、そして南米で最大の商業圏がサンパウロ市を中心に形成されています。

ブラジルの輸出入総額にサンパウロ州が占める割合は、輸出の32%、輸入の40%で、輸出では半製品と完成品の割合が高くなっています。工業製品などの完成品はブラジル全体の約5割、半製品は全体の約2割がサンパウロで生産されています。

サービス産業と高付加価値産業がサンパウロ州経済の特徴ですが、工業部門と農業部門も、州経済では主要な位置を占めています。サンパウロ州の工業部門の主力製品は、中規模旅客機と自動車です。世界で製造される乗客100名以下の中規模旅客機では、サンパウロ州がその45%を生産しています。自動車工業は国内

生産の47%がサンパウロ州で製造されています。主要な農産品はオレンジジュースとサトウキビです。ブラジル産オレンジジュースの98%がサンパウロ産で、これは世界全体で生産されるオレンジジュースの約5割の生産量に相当します。また、ブラジルはサトウキビを原料とするエタノールの一大生産・輸出国ですが、サンパウロ州は国内総生産の約7割を生産し、生産量、輸出量ともに世界一となっています。

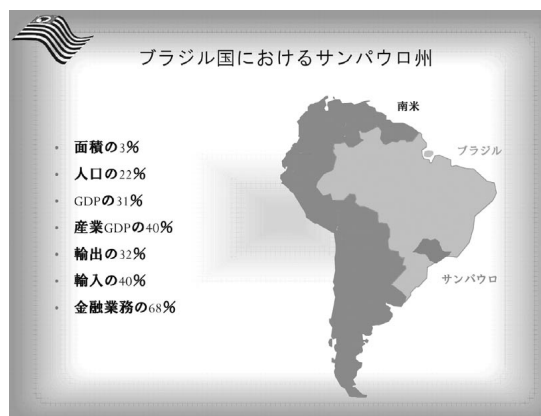
商業面でいえば、ブラジルで最もサービス業の発展した地域はサンパウロ州です。IT、医療、教育、金融、工業、物流などに加え、南米最大の取引所であるサンパウロ証券取引所（BOVESPA）と先物商品取引所（BM&F）を擁し、弁護士、会計士事務所等の専門業者も多数あります。数多いレストランやショッピング施設、文化活動など活力ある生活環境に加え、州全域で社会インフラの整備が進んでおり、高速道路をはじめとする多様な輸送手段が利用可能です。

競争力の強化と支援体制

優秀な人材はサンパウロ州の強みです。公立のサンパウロ大学（USP）やサンパウロ州立大学（UNESP）は数多くの博士号取得者を輩出、国内の科学者のうち33%がサンパウロ州の科学者です。州は、19の公的研究所のほか、7カ所のテクノパークを展開、工業大学39校、高等工業学校140校、国内トップレベルの3大学を運営し、州予算の13%強を教育・研究活動に振り向けています。企業向けR&Dを含む州の研究開発費補助は2007年度州予算で3億ドルを予定しています。

州は競争力強化策として、サンパウロ州の企業と人材の育成、技術開発、地域の強みを生かしたクラスターの強化、テクノパーク強化に重点をおいています。

図表5 ブラジルにおけるサンパウロ州



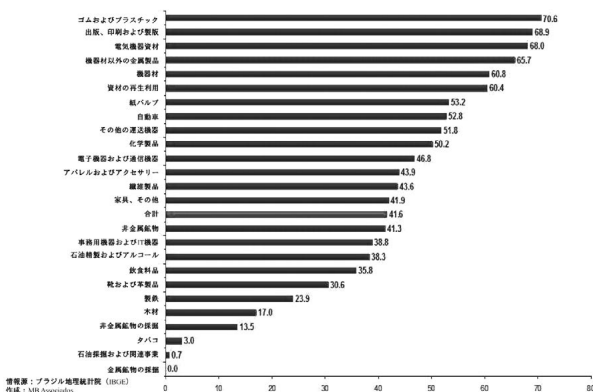
有能な人材、整ったインフラ設備、たくましい消費市場、技術革新の支援がサンパウロ州の競争優位を維持できると考えています。

サンパウロ州への投資機会

過去、日本は対ブラジル投資国の上位にありましたが、現在の対ブラジルFDI総額をみると日本は国別で第16位です。しかし現在のブラジル、特にサンパウロ州が外国企業に提供できる投資機会は多様であり、魅力的なものとなっています。国連貿易開発会議（UNCTAD）によれば2007年、ブラジルはFDI流入額で前年比99.3%、ラテンアメリカ地域も50.2%の大きな伸びを示しました。同時期のFDI流入額をみると、世界平均は17.8%、途上国平均では15.7%、インド、中国はそれぞれ-3.1%、-9.4%でした。

サンパウロ州が提供する投資機会は多様なセクターに存在します。2007年のセクター別投資額（契約ベース）をみると、航空輸送部門の約60億ドルを筆頭に、食品・飲料部門44億ドル、陸上輸送39億ドル、以下自動車工業、電力ガス・熱エネルギー、製鉄、通信と続いています。

図表6 ブラジルの産業にサンパウロ州が貢献するセクター別割合（%）2004年（出荷額）



現在サンパウロ州は多様なインフラ整備を計画しています。また、サンパウロ州は他州にさきがけて民間セクターとの提携を行った州でもあり、州営事業の民営化、官民パートナーシップ（PPP）で実績を保有しています。同州におけるPPPのプロジェクトリストは下記のアドレスに掲載されております。http://english.investimentos.sp.gov.br/portal.php/opportu

nities/ppp/projects

サンパウロ州で予定されている主要な公共投資計画は次ページ図表7のとおりです。また、石油・天然ガス、バイオ燃料の生産・物流、サン・セバスチャン港開発などの戦略的事業機会もあります。

これらの計画ではコンセッションによる民間資本導入や公開入札が予定されています。日本を含む外資企業をサンパウロ州は歓迎します。州政府開発局は進出企業の投資決定から実行の段階に至るまでのサポート体制を用意しています。

ブラジルはグローバル経済の重要なプレーヤーであり、投資先としての魅力を高めています。なかでもサンパウロ州は最適なビジネス環境を備え、外国投資家にとって最適な投資機会を提供できると考えています。ご清聴ありがとうございました。

【代表企業紹介】

CSN

ナショナル製鉄ともよばれるブラジル大手鉄鋼メーカー。自社鉱山をもち鉄鋼生産から、物流（港湾／鉄道）を一貫して手がける。2006年粗鋼生産量350万トン、2007年売上高59億ドル／純益15億ドル。1941年設立（93年民営化）。

エンブラエル

世界第3位の航空機メーカー。主力の中小型旅客機（30～100名規模）ほかプライベートジェット機、軍用機製造、航空サービスを行う。2007年売上高50億ドル／純益4.9億ドル、受注残203億ドル。1969年設立（94年民営化）。日本では丸紅が代理店、日本航空および鈴与グループが同社機の導入決定。

ペトロブラス

ブラジル国営石油会社。国内外の油ガス田探査開発から生産・精製までの一貫体制をもち、バイオ燃料生産・技術開発も行う総合エネルギー会社。1953年設立、2007年売上高877億ドル／純益131億ドル。

ヴァーレ

世界最大の鉄鉱石サプライヤー。鉄鉱石のほかマンガン、銅、カオリン等の資源開発、アルミ精錬、鋼材製造など。2007年売上高8412百万ドル／純益2573百万ドル。1942年設立（97年民営化）。リオドセ（CVRD）から社名変更。

ウジミナス

ブラジル大手鉄鋼メーカー。日伯初の合弁会社で新日鉄の持ち分法適用関連会社。イパチング製鉄所、クバトン製鉄所を擁し、国内鋼板シェアトップ。2006年粗鋼生産量880万トン、2006年売上高84億ドル／純益25億ドル。1958年設立（91年民営化）。



図表7 サンパウロ州の主要な公共投資計画

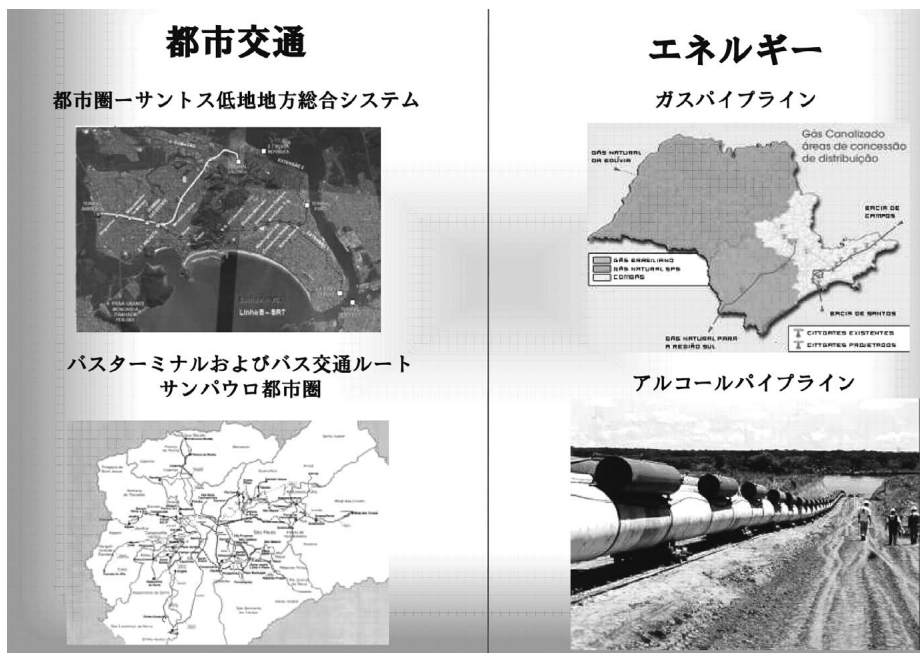
●運輸部門（総額250億ドル超）

システム	計画	詳細	投資総額 (百万ドル)
鉄道	地下鉄網、都市圏内鉄道、高速鉄道、空港連絡鉄道（VLT）	鉄道線路の敷設、拡大および近代化、車両修繕、新車両の購入、信号システム、高速鉄道車両の接続建設、都市圏の鉄道網強化等	12,978.40
陸送	高速道路網の拡大および複線化	高速道路の改善、重複および建設事業	6,056.50
都市圏	圏央道および戦略的な重要交通ルート	圏央道の部分的建設および交通ルート網の建設	6,536.20
港湾	サン・セバスチャン港	埠頭の拡大および新埠頭の建設（賃貸借）	301.80

●基礎衛生・エネルギー部門（総額100億ドル超）

システム	計画	投資総額 (百万ドル)
都市廃棄物および下水汚泥からのエネルギー回収	火力発電所（発電および蒸気発電）	1,000.00
サンパウロ州における水力発電潜在力からのエネルギー回収	火力発電所	～4,000.00
サトウキビバガスのコジェネレーション潜在力からのエネルギー回収	既存コジェネレーションプラントの改造および近代化	～4,000.00
チエテ川の川辺低地の総合管理「第3河床」計画	チエテ川のペンニャ・ダム上流にある川辺低地の回復、市街化および総合管理	～1,250.00

●その他インフラ整備計画



【代表企業各社の投資計画（一部抜粋）】

企業名	プロジェクト	期間	金額
CSN	鉄鉱山開発、製鉄所拡張、セメント工場、輸送インフラ（港湾・鉄道）整備等（2012年までに粗鋼生産量16百万トン/年に拡張）	～2012年	（確定14.1億ドル超）
エンブラエル	工場、機器設備の拡張および研究開発投資	2008年度	4億ドル超
ペトロブラス	原油生産・精製（E&Pおよびダウンストリーム）	2008～2012年	総額1,124億ドル
ヴァーレ	・鉄鉱石ほかニッケル等非鉄金属増産および物流 ・環境投資	2008年度 2008年度	104億ドル 7.62億ドル
ウジミナス	粗鋼生産量を年間15.5百万トン体制に拡張	～2012年	総額72億ドル